

東名古屋病院だより

平成29年10月発行 第69号



東名古屋病院の屋上から見える風景

理 念

私たちは、医の倫理を守り、患者さんの気持ちを尊重し、より質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんへの医療内容の説明と患者さんの同意を医療の基本とします。
2. 地域に密着し、心の触れ合いを大切にした医療を提供します。
3. 常に自己研鑽に励み、医療人としての専門的知識・技術の習得に努め、皆様に信頼される安全で最新の医療を提供します。
4. 健全な経営を維持して療養環境の整備に努め、安心して快適に療養できる病院を目指します。

目 次

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 2 P : 巻頭言 | 7 P : 名城大学薬学部管弦楽部ふれあいコンサート |
| 3 P : 病気とのつきあい方 | 8 P : NHO PRESS～国立病院機構通信～ |
| 4 P : 看護部紹介 | 9 P : 地域医療連携室 |
| 5 P : 部署紹介 | 10P : 外来案内、外来診察担当医表 |
| 6 P : 歩行支援ロボットでのリハビリテーション | |



独立行政法人 国立病院機構
東名古屋病院
NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION
HIGASHI NAGOYA NATIONAL HOSPITAL



〒465-8620
名古屋市名東区梅森坂5-101
TEL 052-801-1151
FAX 052-801-1160
ホームページアドレス
<http://www.tomei-nho.jp/>

協調社会、協調医療



統括診療部長 犬飼 晃

“ 自国第一主義、自国の利益の為には何でもするぞ ”, “ 自国の存続の為にはミサイルもどんどん作り、攻撃もするぞ ”, “ 自国の主張を通すには、命をかけてテロも行うぞ ” と聞いて恐ろしげな言葉が社会に氾濫し、話題をさらっている。ある一つの考えが、何の異議もなく、他のすべてに受け入れられることはほとんど無い。そこで、しびれを切らした方々が、力づくで認めさせようと言い出すわけである。世界の事件として聞いてのみいる間は、現実の出来事ではあるのだけれど、島国の民たる私どもは、何か遠いところで起こっているような感じがして、身近な出来事とは思うことができず、その主張の正誤も積極的に考えようとは思えません。しかし、“ 自国 ” → “ 自分 ” に置き換えてみると、“ 自分第一主義、自分の利益の為には何でもするぞ ”, “ 自分の存続の為には武器もどんどん作り、攻撃もするぞ ”, “ 自分の主張を通すには、命をかけてテロも行うぞ ” と、まあ、何と分かりやすいことでしょうか。これでは、学生の部活もできません。一人一人がか弱い生命体である人間にとって、みなで話し合い、我慢し合い、協調しなくてはいけないということが、人の存続のために必要なことであって、遠い昔から人の体に染み付いている基本的な思想だと思います。

さて、当院の医療現場では、患者さん、介助者の方、他病院 & 医院の方、在宅医療を担当される方、介護施設の方、その他様々な方の意見

を取り入れるための取り組みをしております。病院に設置してあります御意見箱、患者さん・ご家族と医師・看護師との話し合いの場、在宅療養される方が関係される医療 & 介護施設の方との間のカンファランス、急性期病院との間での迅速な意見交換など、すべて、患者さんと取り巻く環境に対して、将来的に不都合を起こさないため、当事者、関係者の方と協調した連携を取りたいと思うからです。

さて、こうした協調の思想は、リハビリテーションの現場にも具現化されてきております。当院に昨年 12 月に導入された、医療用サイボーグ HAL を用いた歩行リハビリテーションです。このロボットは、現在、限られた少数の神経・筋疾患の方にしか使用できませんが（脳出血 / 脳梗塞の方は残念ながら使用できません）、患者さんが歩きたいと思った、その指令が、脳から脊髄を伝わって、末梢神経、筋肉へと伝播されます。その信号をロボットがキャッチして、患者さんの思い描いた運動へとアシストするといった仕組みで、患者さんの意志と協調して歩行訓練を自動的に行なおうとするものです。当院での経験はまだ少数ですが、実施していただいた患者さんには概ね好評をいただいております。今後も、こういった、体との協調を重視した医療器具、医療技術が登場することが期待されます。

病気とのつきあい方

PEGについて

外科医長 渡邊 正範



当病院は、年間50例以上の「経皮内視鏡的胃ろう造設術」(以下PEGと略します。)を実施しています。又、常時100人以上のPEGを行なった患者さんの入院、外来管理を行なっています。

PEGについてのご相談、依頼等は、お気軽に外科外来に来てください。

具体的には

- ①新規にPEG造設をする場合、又、PEG造設かどうか迷われている場合。
- ②すでにPEGを行った患者さんで、胃ろう部分のトラブルがある時。発赤、肉芽増殖、胃ろう周囲よりの漏れがある時など。
- ③PEGを行った方が、食事を入れたとき、下痢などなかなか栄養として身体に取り込まれないとき。
- ④また、PEG以外、たとえば、腸ろうや開腹による胃ろう造設についての相談など。

PEGの方法

「PEG」とは内視鏡を使って、おなかに小さな穴をつくる手術です。

具体的には、口から十分に栄養が取れない患者さんのために、内視鏡(胃カメラ)を使っておなかの壁と胃の壁を通して小さな穴(この小さな穴のことを胃ろう(いろう)といいます)を造り、その穴にチューブを入れる手術です。そのチューブを通して栄養を摂取します。手術は比較的簡単で、局所麻酔で30分ぐらいです。

1週間ほど入院になります。

退院後は、胃ろうのカテーテル交換はバルーン型で1ヶ月に1回、バンパー型で半年に1回外来で行ないます。



胃ろうまでの流れ。

1、口から食べれなくなった時、どうするか?

主治医の方から胃ろうを作ったらどうかという提案があります。

2、胃ろうを作るかどうかの本人や家族の判断は?

胃ろうのメリット、デメリットを考えて決めます。

胃ろうのメリット

◎患者さんにとってのメリット

鼻からのチューブがなくなります。

◎介護する方にとってのメリット

鼻からのチューブよりも管理が容易なため、自宅でも患者さんの介護ができます。また、鼻からのチューブだと受け入れてくれる施設が少ないので、胃ろうだと施設の選択が広がります。



胃ろうのデメリット

場合によっては、延命治療となります。

欧米では、高齢あるいは、病気などで終末期(これ以上良くなる見込みがない時)を迎えたら、口から食べられなくなるのは当たり前で、胃ろうや点滴などの人工栄養で延命を図ることは非倫理的であるということをやります。日本でも、昔は自分で食べることができなくなった時、それ以上の治療はしませんでした。しかし、現在では介護施設の関係で胃ろうを作る人が多いのが実情です。

看護部紹介

不安を和らげるための看護を目指して

手術室 看護師長 岡本 未来



当院の手術室では、ヘルニア手術、乳腺手術、胸腔鏡を使用した肺手術、前立腺や膀胱、尿路結石、尿失禁などの泌尿器科手術、各種の骨接合、手の腱や軟部組織へアプローチをする整形外科手術等を行っています。

手術室は手術着・マスク・帽子をつけた医師や、看護師と、医療機器に囲まれており、病棟とは大きく雰囲気異なります。手術を受けられる患者さんにとっては、非日常的な環境や場面で不安や緊張感を抱くことは自然なことです。その緊張を和らげるために手術室看護師は術前訪問など様々な取り組みを行っています。

術前訪問は、手術を担当する看護師が病棟へ伺い、パンフレットを用いて手術当日の流れを説明します。写真で医師や手術室の様子を確認することができます。手術の間、同じ姿勢で過ごしていただくのに、支障がないかなど身体面の確認をさせていただきます。ほかに、患者さんやご家族の質問にお答えいたします。

術前訪問後に、カンファレンスを行っています。手術前に手術による危険に配慮し、術後合併症などが起こらないように対策を検討しています。より患者さん、個々にあった看護を提供できるように、医師と連携してできる限り患者さんの負担が少なくなるように取り組んでいます。

手術当日は手術を担当する看護師が、患者誤認防止のために患者さんのお名前と手術部位などを確認させていただきます。確認後、手術室の中にご案内します。手術中に患者さんは、医師の声や、器械の音が聞こえる状況下にあります。そのため、手術室は音楽がかかっており、手術を受ける患者さんがリラックスできるように環境を整えています。ご希望があればお好き

なCDをご持参いただくこともできます。担当看護師が必ず傍にいますので、何でもご相談ください。

手術後は、術後訪問に伺い、患者さんの術後経過を確認し、私たちが手術室で行った看護を評価し、病棟での術後看護に活かせるように連携しています。

当院では呼吸器、消化管の内視鏡検査や胃瘻造設術の介助も手術室看護師の役割のひとつです。検査の受付から終了まで、同じ看護師が携わることでの安心感や、何度も似たようなことを聞かれる煩わしさをなくすように努めています。看護師は検査室でもナース服ではなく手術着をユニフォームとして活動しております。見慣れない装いですが、なんでも気軽にお話し下さいね！

手術も検査も苦痛を伴いますので、恐怖や不安を抱え勇気を振り絞って来院される患者さんも多くいらっしゃいます。私たち手術室看護師はそんな患者さんに、寄り添い、より安全安楽に手術や検査が受けられるように援助したいと考えています。



部署紹介

薬剤部の紹介

当薬剤部は現在、薬剤師が12名と薬剤助手1名の13名で調剤・服薬指導・製剤・注射薬無菌調整・医薬品情報・治験管理等の業務を行っています。

私たちが、毎日手にしている医薬品は様々な情報の集まりです。医薬品として体に入り、効果を発揮し、体の外に尿などと一緒に排泄されるまで膨大な情報を持っています。その情報を医薬品の供給と共に患者さんや医療スタッフに的確に伝え、薬物治療の質と安全の向上に寄与することが薬剤師の重要な任務だと考えています。そのために日常の業務である調剤や注射薬払い出し、医薬品に関する各種問い合わせに対する回答、患者さんへの服薬指導、入院時の持参薬管理、注射薬の無菌調製などはもちろんのこと、病棟での業務をさらに充実させるため、3病棟（東4階、西5階、西6階）に薬剤師を常駐させています。それにより従来の入院患者さん個々への服薬指導に加え、当該病棟入院患者さんに使用される医薬品全般に渡って安全性等に目を配っています。

また、医師をはじめとした病棟のスタッフと情報を共有し、チームで患者さんの薬物治療がより安全で有効に遂行できるよう薬の専門家という立場で薬剤師としての責任を果たしたいと考えています。他にも、NST（栄養サポートチーム）、ICT（感染管理チーム）、褥瘡チームなど多職種で編成されたチームに薬剤師が所属し、院内回診等を行っています。

このように、薬剤部内で行っている調剤、製剤、混注業務、薬品管理などの従来業務に加えて臨床に即した業務、チームで行う業務の範囲が拡大してきたこともあり、高度な医療に適応



薬剤部長 深津 哲

した専門性の高い知識とスキルが薬剤師に求められるようになってきたことも近年の特徴ではないでしょうか。

また、地域の調剤薬局との連携を図るために『薬剤適正使用のための施設間情報連絡書』を作成し、退院した後も入院中と同等の安全で適正な薬物治療を継続して受けられるように、情報の共有を行っています。

その他に、薬学生の実習・見学も受け入れています。薬学部学生は5年次に11週間の病院薬剤部での実務実習が義務づけられており、今年も一期から三期各2名ずつ、計6名の学生を受入れます。さらに一部の大学では1年次に早期体験学習が行われており、毎年12名程度を受け入れています。

医療の現場からも薬剤師の参加要望が増加していることもあり、薬剤部のスタッフを院内のいろいろな場所で見かける機会があると思います。薬について気になることや相談があれば、薬剤部の窓口にお越しいただくか、病棟等で見かけた薬剤師に気軽に声をお掛け下さい。



歩行支援ロボットでのリハビリテーション



理学療法士長 大西 靖

リハビリ部門では脳卒中などの回復期の患者さん、神経難病、呼吸器疾患、運動器疾患、がん患者さんのリハビリに力を入れています。

近年、リハビリの分野において下肢の筋力が弱い人や麻痺で動きにくい方の歩行を支援するロボットや製品が開発されてきています。二足歩行ロボット「ASIMO（アシモ）」を開発したホンダも研究成果を活かし、歩行をアシストする製品を出しています。また、トヨタ自動車も藤田保健衛生大学と共同し脳卒中などの下肢麻痺のある人の歩行リハビリ支援ロボットを開発し、今秋から病院向けにレンタルを開始しています。他にも名古屋工業大学と一般企業が提携し重力とバネの力を利用して脚の振出しを補助する製品などもあります。ロボットの技術は医療や介護の現場でも今後ますます導入され、医療者の負担の軽減やリハビリに一役買うことが期待されています。

当院においても、歩行支援ロボット「ロボットスーツHAL（サイバーダイナ社）」が導入されました。医療機器としては唯一保険診療が認可されています。足をこぎ動かしたいという生体電位信号をもとにその動きを補助するモーターが働き、歩行動作を支援するロボットです。体の外側から装着しますが、体型に合わせる調整や思った動きが出せるようになるまで何度も調整する必要があります。生活の場で容易に使用できるような歩行支援ロボットではなく、あくまで医療を目的としたものです。進行疾患の筋力維持・強化、歩き方の改善、運動量が多くなることで耐久性の維持向上などの効果を期待して行っています。

適応となるのは、脊髄性筋萎縮症、球脊髄性

筋萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、シャルコー・マリー・トゥース病、遠位性ミオパチー、封入体筋炎、先天性ミオパチー、筋ジストロフィーの8疾患の方です。

歩行補助ロボットの訓練を担当するのは理学療法士です。ロボットを扱うにあたっては事前にサイバーダイナ社が行う安全使用講習を3時間（座学及び実技）受講します。訓練の1回の実施時間は、着脱を含め1時間40分（実質の歩行訓練20～30分）、療法士2名が訓練対応にあたっています。週に2～3回の頻度で合計9回の訓練を実施するスケジュールで行っています。安全に訓練が進められるよう免荷式リフト機能が付いた歩行器を使用しています。これまで歩行補助ロボットが導入されてからの7ヶ月間に12人が実施しています。当院では、歩行支援ロボットのリハビリが軌道に乗りつつあり、症例数を重ねて目的に見合ったより良いリハビリが提供できるよう進めていきたいと思っています。





第12回 名城大学薬学部管弦楽部 ふれあいコンサートを開催しました！

日 時：平成29年8月25日 14時30分～

場 所：当院外来ホール

このふれあいコンサートは、平成18年に第1回を開催して以来、回を重ねること、今年で12回目を迎えることとなりました。名城大学の管弦楽部の方には毎年すばらしい曲を披露していただいております。

- 今年、
1. いい日旅立ち西へ
 2. 童謡メドレー
 3. 津軽海峡冬景色
 4. ありがとう(いきものがかり)

を演奏して頂き、そして恒例の楽器紹介で、各楽器の形・音色の違いや名前の由来など、とても楽しい一時を過ごさせて頂きました。



トピックス2

東名古屋病院は、国立病院機構（NHO:National Hospital Organization）という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS～国立病院機構通信～』を発行しています。外来ホールや待合室に設置していますので、ぜひご覧になってください。なお、ホームページに最新号と過去のを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

NHO PRESS

検索



国内最大級のネットワーク

国立病院機構 東名古屋病院



地域医療連携室

地域医療連携室の役割



地域連携係長 寺谷 里代

地域医療連携室では地域包括ケアシステムの構築を推進する活動として地域の保険医療機関や介護居宅サービス事業者、地域密着型サービス事業者、施設サービス事業者等との関わりを密にする取り組みを行っています。

平成27年5月より「名東区なでしこの会」（名東区地域包括ケア推進会議在宅医療・介護連携推進部会）の一員として研修会を担当したり、他の研修会に参加し地域のサービス担当者や、医師会、歯科医師会の方達との交流を図っています。

その中の行事の1つとして9月7日に当院にて名東区多職種連携研修会を開催しました。「知りたい！退院支援」というメインテーマで、はじめに「東名古屋病院における退院支援」について当院の医療社会事業専門職の増田が講演し、ひき続き「自宅退院希望の強い独居、末期がん患者の退院支援」という内容で退院調整副看護師長の松田が話題提供を行いました。参加メンバーは保健所長、診療所、病院の医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー、介護職、訪問リハビリ関係者などで、当院からも血液腫瘍内科医師、呼吸器内科医師、歯科口腔外科医師、退院調整看護師、医療ソーシャルワーカーが参加しました。話題提供で発表した事例を通してグループワークを行い、各職種が1つの事例をそれぞれの立場で考え、他の職種の意見を聞くことで、患者様にとってより良いケアサービスを計画するための参考になったとの感想を聞きました。

より実践的な検討を行い、患者さんが退院後も安心して生活をするためには医療、看護、介護の継続が重要であることを学びました。また

短時間ではありましたが、各職種の立場で熱のこもった意見交換ができたと思います。さらに歯科医師の先生から名東区の歯科医師会で開設している往診歯科相談センターの情報なども聞く事ができ、中身の濃い研修になりました。



外 来 案 内

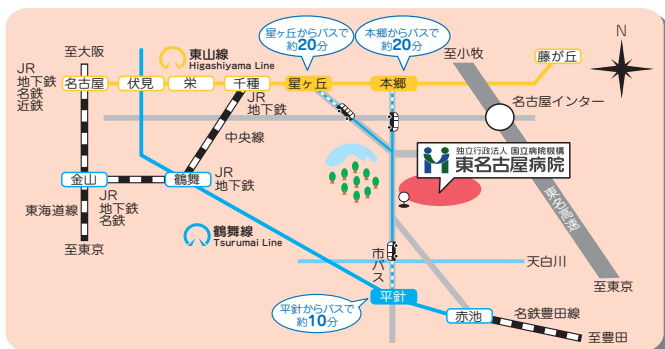
- 診療受付時間 午前8時30分～午前11時まで（緊急の場合はこの限りではありません）
- 診療開始時間 午前9時～
- 休 診 日 土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始（12月29日～1月3日）
- 初診時の特別料金 他の医療機関等からの紹介ではなく、直接当院に来院された患者さまは、初診にかかる費用として、2,160円（税込）をいただいております。ご了承下さい。
ただし、緊急その他やむを得ない事情により他の医療機関からの紹介によらず来院された場合にあってはこの限りではありません。

外来診察担当医表

（平成29年10月1日現在）

診療科	月	火	水	木	金
呼吸器内科 (初診)	八木 光昭	福井 保太	林 悠太	山田 憲隆 中川 拓 第1・3 第2・4・5	垂水 修
	垂水 修		福井 保太	八木 光昭	林 悠太
	中川 拓	山田 憲隆	中川 拓 小川 賢二 第1・3 第2・4・5	小川 賢二	
呼吸器感染症専門外来		小川 賢二 第1・3 13:30～15:30			
循環器内科 (初診)	三井 統子	野田 浩範	三井 統子	野田 浩範	西村 和之
神経内科	犬飼 晃	横川 ゆき	橋本 里奈 片山 泰司 第1・3 第2・4	饗場 郁子	齋藤由扶子
	饗場 郁子	片山 泰司	犬飼 晃	齋藤由扶子	榊原 聡子
	横川 ゆき		榊原 聡子	橋本 里奈	
消化器内科	当 番 医	高橋 宏尚	高橋 宏尚 小林 慶子 (交代制)	小林 慶子	高橋 宏尚 小林 慶子 (交代制)
呼吸器外科			山田 勝雄		
外科・消化器外科	渡邊 正範	加藤 俊之 野浪 敏明	和泉 孝明	永田 博 加藤 俊之	渡邊 正範
肛門外来	渡邊 正範	加藤 俊之	和泉 孝明	加藤 俊之	渡邊 正範
乳腺外科	遠藤登喜子 林 幸枝 8:30～11:00, 13:30～15:30	遠藤登喜子 8:30～11:00, 13:30～15:30	遠藤登喜子 8:30～11:00, 13:30～15:30	小川 弘俊 13:30～15:30 初診・健診はなし	遠藤登喜子 角田 伸行 8:30～11:00, 13:30～15:30
乳腺・内分泌外科				今井 常夫	
整形外科	金子真理子		祖父江康司	金子真理子	菱田 愛加
リウマチ科			祖父江康司		
脳神経外科					竹内 裕喜
泌尿器科	岡村 菊夫	青田 泰博	青田 泰博 岡村 菊夫 午前 13:30～15:30 女性泌尿器科外来	青田 泰博	岡村 菊夫
精神科					宇佐美 敏
総合内科		峯村 信嘉 横井 俊介 (交代制)		内海 眞	
血液・腫瘍内科	清水 一之	神谷 悦功	清水 一之	水谷 武史 小椋美知則 午前 午後(隔週)	神谷 悦功
禁煙外来		(予約制) 13:30～14:30			
内分泌内科					深見亜也子
小児科	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子
皮膚科	加藤 愛	加藤 愛	加藤 愛	田中 伸 第4 12:45～14:45	加藤 愛
歯科口腔外科	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則
ドック	外来人間ドック (予約制)				
耳鼻いんこう科		伊藤 陽子	伊藤 陽子	伊藤 陽子	
補聴器外来		(予約制) 第1・3 14:00～15:30		(予約制) 第1・3 14:00～15:30	

※予約制は再来診の場合のみです。初診の場合は通常どおりの診療となります。
 ※救急診療は、時間外・休日も行っていますので、時間外窓口にご連絡下さい。(052-801-1151)
 ※当院では、隔週月曜日に外来人間ドック（予約制）を行っていますのでご利用下さい。
 ※セカンドオピニオン外来（予約制）を行っていますのでご利用下さい。
 ※小児科・禁煙外来は完全予約制です。
 ※女性泌尿器科外来・乳腺外科・血液・腫瘍内科 午後（隔週）の受付時間は15:30までとなっております。



- 地下鉄東山線星ヶ丘駅下車
 - ・市バス③番のりば 東名古屋病院行き } 約15～25分 東名古屋病院にて下車
 - ・梅森荘行き
 - ・星ヶ丘よりタクシーにて約15分
- 名鉄豊田線・地下鉄鶴舞線赤池下車
 - ・タクシーにて約8分
- 地下鉄鶴舞線平針下車
 - ・市バス①番のりば本郷行き約10分 東名古屋病院にて下車
 - ・タクシーにて約8分
- 地下鉄東山線本郷駅下車
 - ・市バス①番のりば地下鉄平針行き 15～20分 東名古屋病院にて下車
- 東名高速道路名古屋インターより車で約20分